

第2回 中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

【注意事項】

※項目は全て埋めてください。

※実際のクラスを想定しながら、学生に対する指示や説明、やり取りの言葉など詳しく書いてください。

※授業時間は、1コマ40～45分です。

※教案は日本語で書いてください。

| 使用教科書： <u>みんなの日本語2</u> 第 <u>29</u> 課 (全 <u>7</u> コマの内、本教案は <u>6</u> コマ目) 1コマ <u>45</u> 分 【要選択】 (高校) <u>2</u> 年 クラスの人数 <u>24</u> 人 【要選択】 第一外国語 日本語学習歴 <u>1</u> 年 | | | | |
|---|-------------------|--|--|---|
| この授業の到達目標 1. 文法「～ている (状態・様子)」を実際に運用できる。 2. 人の外見や特徴を描写する文章を書くことができる。 3. グループ活動を通じて、学び合うことができる。 | | | | |
| この授業の学習項目 1. 文法「～ている (状態・様子)」を復習する。 2. 人の外見や特徴に関する言葉を学ぶ。 3. 作文を相互添削する方法を学ぶ。 | | | | |
| 時間 | 段階 (授業の 流れ) | 練習・活動の内容 (詳しく書いてください) | 練習・活動の目的 | 注意点・ 使用するもの |
| 10min | 前作業 | 前回の授業では文法「～ている (状態・様子)」について勉強しました。今日一緒に復習しましょう。 ①文法「～ている」に動詞はどのように活用されますか。 動詞のて形を使います。 ②今まで勉強した「～ている」にはどんな意味がありますか。 動作の進行、現在の習慣、動作の結果の継続、状態・様子 ③先生の写真を見て、どんな特徴があるか、なるべく「～ている」を使って、グループで話し合ってみてください。 先生は痩せている。 先生は茶色の長靴をはいている。 など | 前回の授業で勉強した知識を復習する。そして、今回の学習内容につなげる。 先生の写真を使って、生徒たちの興味を引き出させる。 | 今まで勉強した「～ている」についての例文を出す。 先生の写真を用意しておく。 |

| | | | | |
|--------------|------------|---|---|---|
| | | <p>④作文のサンプルを示し、人の特徴を描写するときのポイントを手帳でまとめてみてください。</p> <p>参考例：</p> | <p>例文を使って、人の特徴を描写する時、どんなポイントがあるのか生徒たちに自ら発見させる。そして、発見したものをマインドマップでわかりやすくまとめさせる。</p> | <p>白紙を用意しておく。</p> |
| <p>20min</p> | <p>本作業</p> | <p>①作文を書く前に、まずみなさんと一緒に作文評価シートをみてください。作文を評価する時、どんなポイントに気をつけなければなりませんか。</p> <p>内容、読み手への配慮、語彙・文法・表記などです。</p> <p>②だから、作文を書く時、以上のポイントを心がけて書いてください。今、グループに（四人グループ）一枚ずつ絵を渡します。2分間で配られた絵をよく観察してください。（2分間後、絵を回収する。）</p> <p>③これから、グループに、みなさんが1人1文ずつ、リレーで思い浮かべた絵の特徴を書いてみてください。（文字数：150字—200字程度 文体：ていねい体 時間：10分間）</p> | <p>作文を書く時に、どんなポイントに注意しなければならないか、生徒たちに意識させる。</p> <p>限られた時間内で、なるべく人の特徴を多く捉えさせて、学習意欲を高めさせる。</p> <p>リレーの形で、書く作業の負担をできるだけ軽くする。</p> | <p>作文の評価シートを用意しておく。</p> <p>作文を書く時に使う人物像を用意しておく。</p> <p>原稿用紙を用意しておく。</p> |
| <p>13min</p> | <p>後作業</p> | <p>①下書きしたものをまずグループ内でマインドマップによって推敲し、そして清書してください。</p> <p>②隣のグループと作文を交換してください。隣のグループの人は作文を読んで、絵を描いてみてください。</p> <p>③（描いた絵と本当の絵を黒板に貼ります。）そして、作文のいいところ、直したほうがいいところを話し合ってください。（ピアライティング）</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちが絵の人の特徴を詳しく書かれていますか。書かれた特徴は本当の絵と合っていますか。 | <p>自分が書いた作文をまず自分でチェックして、自己評価をする。</p> <p>描いた絵と本当の絵と比べて、読み手を意識しながら書いたのかを確認できる。</p> <p>ピアライティングで相互評価ができる。</p> | <p>空白紙、カラーペンを用意しておく。</p> <p>ピアライティング評価表を配る。</p> |

| | | | | |
|------|----|---|--|-----------------|
| | | か。 ・ 「～ています」のような文型が使われていますか。 ・ 「ここがいいな」「上手だな」と思ったこと ・ 「こうしたら、もっといい文章になるかもしれない」と思ったこと | る。クラスメートからいい学習方法が勉強できる。 | |
| 2min | 宿題 | ①話し合いが終わったら、その内容をもとに、もう一度書き直してください。 ②教師からのフィードバックを行う。 | 今回の授業で勉強した内容をどのぐらい把握したかを確認する。 なるべくいいところに注目して評価する。 | 原稿用紙を1人に一枚ずつ配る。 |

工夫点・アピールポイント（どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など）

- 1.ARCS モデルを利用し、書く作業の負担をできるだけ軽くし、ほかの学習者と協力しながらゲームやリレーの形で練習させ、学習者の動機を高めるために工夫した。
- 2.書くプロセスを意識させ、「計画プロセス」、「文章化プロセス」、「推敲プロセス」を何度も繰り返しながら、文章を完成させる点。
- 3.生徒たちに読み手を意識させながら書かせる。そして、クラスメートに実際に「読み手」になってもらい、文章を見直したり、書き加えたりさせる点。

研修会でどんなことを学び、どのように授業に活かしたか。

（例：〇〇の講座で●●について学び、授業では△△の部分に取り入れた など）

参加年： 2018 年 / 研修会名：2018年夏季全国中等日语教育教師研修会

- 1.「日本語作文の添削とフィードバック」（呉敏先生）の講座から作文の添削と評価することについて学びました。セルフチェック、ペアライティング、個別指導それぞれの形で、多角度で生徒たちの作文を客観的に評価するように工夫した。
- 2.「日本語作文授業デザイン」（藤井舞先生）の講座から生徒たちに書く時に「読み手」の存在を意識させることについて学びました。今回の授業では、相手が自分の書いたとおりに人物像を描いてもらうかを生徒たちに意識させながら作文を書くためにいろいろデザインした。
- 3.そして、生徒たちに書くことに慣れさせるために、まずサンプルの文章を分析して、生徒たちに書き方を自分で気付かさせる。それに、グループで協力して、思考マップで文章表現に関する単語、知識をまとめさせる。このように、書く負担を軽くし、生徒たちに作文授業に楽しんでもらえる。

※2 ページ以上になってもいいですが、項目は変更しないでください。